

スクリプト

この章では、スクリプトの入力や編集について説明します。
スクリプトの詳細については『KV-7000/5000/3000/1000シリーズ・KV Nanoシリーズスクリプトプログラミングマニュアル』を参照してください。

12-1	スクリプトの挿入	12-2
12-2	スクリプトを変換する	12-4
12-3	変換ラダーの表示	12-5
12-4	入力補助機能	12-8

12-1 スクリプトの挿入

スクリプトの挿入方法について説明します。

スクリプトの詳細については『KV-7000/5000/3000/1000シリーズ・KV Nanoシリーズスクリプトプログラミングマニュアル』を参照してください。

エリアスクリプトの挿入

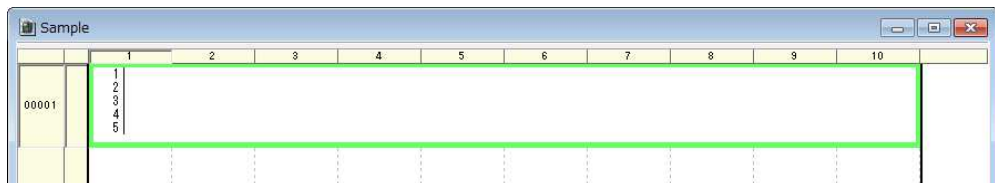
KV-7500/7300 KV-5500/5000/3000 KV Nano
KV-1000 KV-700 KV-P16 KV-10/16/24/40

☰ スクリプト(S) ▶ エリアスクリプト挿入(A) [Ctrl] + [R]

エリアスクリプトは行のすべてをスクリプトで記述します。

- 1 エリアスクリプトを作成したいセル(行)をクリックします。
- 2 メニューから【スクリプト(S)】▶【エリアスクリプト挿入(A)】を選択します。

(別手順) ラダー編集ウィンドウ内で右クリックメニューから[スクリプト編集(X)]▶[エリアスクリプト挿入(A)]を選択



- 3 スクリプトを入力します。
- 4 スクリプト入力後、[Esc] キーを押します。

(別手順) ・ スクリプト記述エリア以外のラダー編集ウィンドウをクリック
・ [Ctrl] キー + [↓] キーを押す

ボックススクリプトの挿入

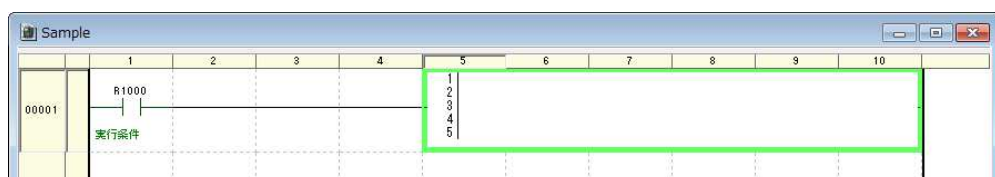
KV-7500/7300 KV-5500/5000/3000 KV Nano
KV-1000 KV-700 KV-P16 KV-10/16/24/40

☰ スクリプト(S) ▶ ボックススクリプト挿入(B) [Ctrl] + [B]

ボックススクリプトは、いつ、どのタイミングでスクリプトで記述されたプログラムを実行するかをラダーで指定できる、ラダー実行条件付きスクリプトです。

- 1 ラダーエディタで実行条件を記述し、ボックススクリプトを作成したいセルをクリックします。
- 2 メニューから【スクリプト(S)】▶【ボックススクリプト挿入(B)】を選択します。

(別手順) ラダー編集ウィンドウ内で右クリックメニューから[スクリプト編集(X)]▶[ボックススクリプト挿入(B)]を選択



- 3 スクリプトを入力します。

4 スクリプト入力後、**[Esc]** キーを押します。

- 別手順**
- ・ スクリプト記述エリア以外のラダー編集ウィンドウをクリック
 - ・ **[Ctrl]** キー + **[↓]** キーを押す

編集方法を切り替える

[KV-7500/7300] [KV-5500/5000/3000] [KV Nano]
[KV-1000] [KV-700] [KV-P16] [KV-10/16/24/40]

スクリプト(S) ▶ 編集方法切替(N) ▶ 直接入力(D)

▶ ウィンドウ(W)

スクリプトの編集方法を選択します。スクリプトエディタ内に直接記述、またはウィンドウを開いて記述するか選択します。

1 メニューから【スクリプト(S)】▶【編集方法切替(N)】▶【直接入力(D)】または【ウィンドウ(W)】を選択します。

直接入力(スクリプトエディタ)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	1	----	IF文----							
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
	16									
	17									
	18									
	19									

```

1  |----IF文----
2
3  |型宣言
4  |TYPE DM0.D
5  |TYPE DM1.S
6  |TYPE DM2.L
7
8  |IF DM0 >= 100 THEN          *比較演算子も使用できます
9      DM1 = DM1 + 5
10     DM2 += DM2
11 |ELSE IF DM0 = 0 THEN      *代入演算子も使用できます
12     DM3 = DM3 * 5
13     DM4 *= 5
14 |ELSE
15     DM5 = DM5 / 5
16     DM6 /= DM6
17 |END IF

```

ウィンドウ(スクリプト編集ウィンドウ)

```

1  |----IF文----
2
3  |型宣言
4  |TYPE DM0.D
5  |TYPE DM1.S
6  |TYPE DM2.L
7
8  |IF DM0 >= 100 THEN          *比較演算子も使用できます
9      DM1 = DM1 + 5
10     DM2 += DM2
11 |ELSE IF DM0 = 0 THEN      *比較演算子も使用できます
12     DM3 = DM3 * 5
13     DM4 *= 5
14 |ELSE
15     DM5 = DM5 / 5
16     DM6 /= DM6
17 |END IF

```

12-2 スクリプトを変換する

入力したスクリプトを変換します。

選択したスクリプトのみ変換する

[KV-7500/7300] [KV-5500/5000/3000] [KV Nano]
[KV-1000] [KV-700] [KV-P16] [KV-10/16/24/40]

スクリプト(S) ▶ 選択スクリプトを変換(S) [Ctrl] + [T]

変換するスクリプトを選択し、メニューから【スクリプト(S)】▶【選択スクリプトを変換(S)】を選択します。選択したスクリプトが変換され、変換したスクリプトの行には、**[+]** ボタンが表示されます。スクリプトの記述に間違いがある場合は、エラーメッセージが表示され、アウトプットウィンドウにエラー箇所が表示されます。

すべてのスクリプトを変換する

[KV-7500/7300] [KV-5500/5000/3000] [KV Nano]
[KV-1000] [KV-700] [KV-P16] [KV-10/16/24/40]

スクリプト(S) ▶ 全てのスクリプトを変換(C)

メニューから【スクリプト(S)】▶【全てのスクリプトを変換(C)】を選択します。スクリプトが変換され、スクリプトの行には、**[+]** ボタンが表示されます。スクリプトの記述に間違いがある場合は、エラーメッセージが表示され、アウトプットウィンドウにエラー箇所が表示されます。

スクリプト変換エラーの警告レベルを設定する

[KV-7500/7300] [KV-5500/5000/3000] [KV Nano]
[KV-1000] [KV-700] [KV-P16] [KV-10/16/24/40]

スクリプト(S) ▶ スクリプト警告レベル設定(W)

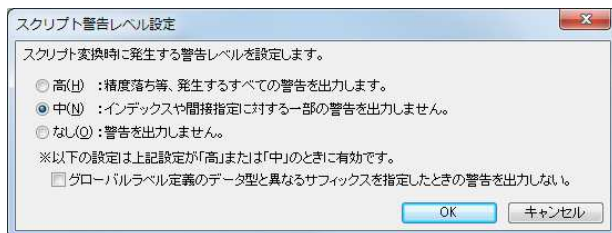
スクリプト変換時に表示されるエラーの警告レベルを設定します。

！ ポイント

この機能は、スクリプト警告レベルを設定することで本来表示されるべき警告を表示せず、効率よく変換するためのものです。十分注意してスクリプトを記述し、スクリプトを変換してください。

1 メニューから【スクリプト(S)】▶【スクリプト警告レベル設定(W)】を選択します。

[スクリプト警告レベル設定]ダイアログボックスが表示されます。



「グローバルラベル定義のデータ型と異なるサフィックスを指定したときの警告を出力しない。」のチェックボックスをONにすると、グローバルラベル登録時に定義したデータの型と異なるサフィックスを指定したときに警告を出力しなくなります。

例) グローバルラベル定義で「1ワード符号無し整数:UINT」を指定し、スクリプトで.Lサフィックスを指定した場合など

2 警告レベルを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

警告レベルが設定されます。

12-3 変換ラダーの表示

ラダー変換後のスクリプト表示について説明します。
作成したスクリプトは変換ラダーとして表示・確認できます。

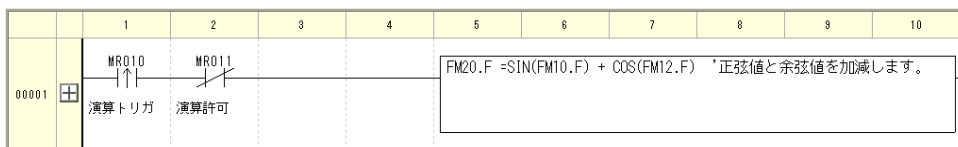
変換ラダーを表示する

KV-7500/7300 KV-5500/5000/3000 KV Nano
KV-1000 KV-700 KV-P16 KV-10/16/24/40

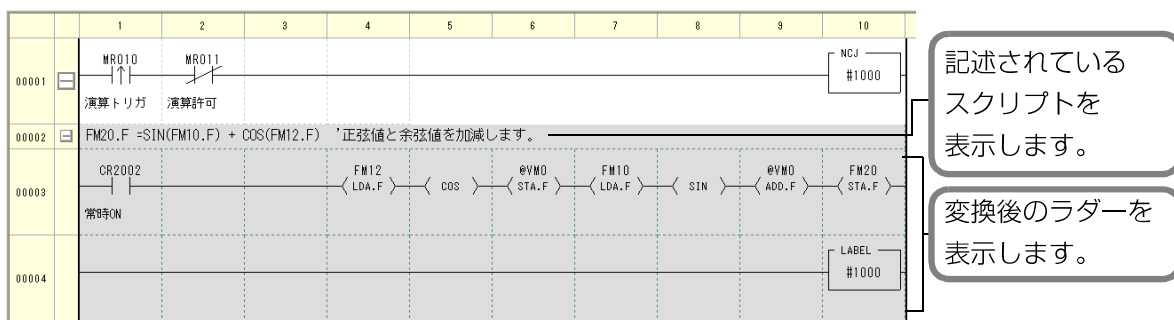
スクリプト(S) ▶ 変換ラダーの表示/非表示(V) [Ctrl] + [G]

次の手順で変換ラダーの内容を表示します。

1 表示したいスクリプトを選択します。



2 メニューから【スクリプト(S)】▶【変換ラダーの表示/非表示(V)】を選択します。表示後もう一度【変換ラダーの表示/非表示(V)】を選択すると、変換ラダーを閉じてスクリプトのみ表示します。変換ラダーが表示されます。



別手順 表示する行の ボタンをクリック

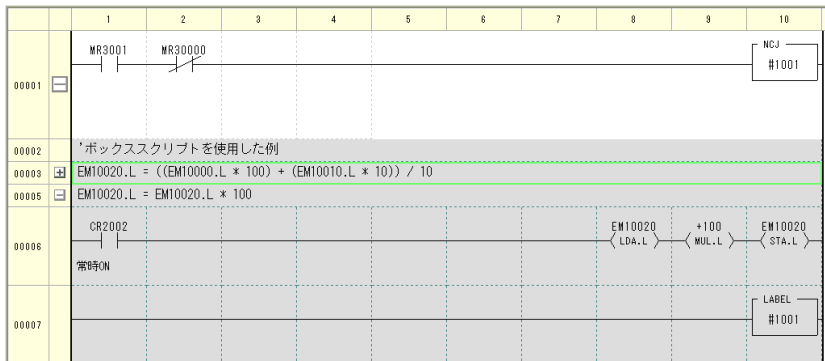
変換ラダー内のラダーをすべて表示する

KV-7500/7300 KV-5500/5000/3000 KV Nano
KV-1000 KV-700 KV-P16 KV-10/16/24/40

スクリプト(S) ▶ 変換ラダー内を全て表示(X)

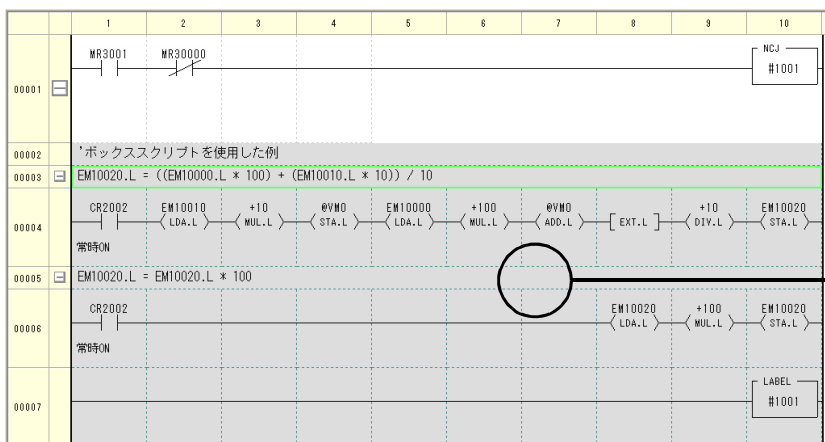
変換ラダーの表示/非表示で表示された変換ラダーのうち、折りたたまれた変換ラダーをすべて表示します。

1 表示する変換ラダー内のラダーまたはスクリプトを選択します。



2 メニューから【スクリプト(S)】▶【変換ラダー内を全て表示(X)】を選択します。

変換ラダーの表示/非表示で表示された変換ラダーがすべて表示されます。



変換ラダー上で右クリックすると、スクリプト用右クリックメニューが表示されます。

参考 変換ラダー内のラダーまたはスクリプトの行の ボタンをクリックすると、1行単位で表示/非表示できます。

別手順 変換ラダー上の右クリックメニューから [スクリプト編集(X)] ▶ [変換ラダー内を全て表示(X)] を選択します。

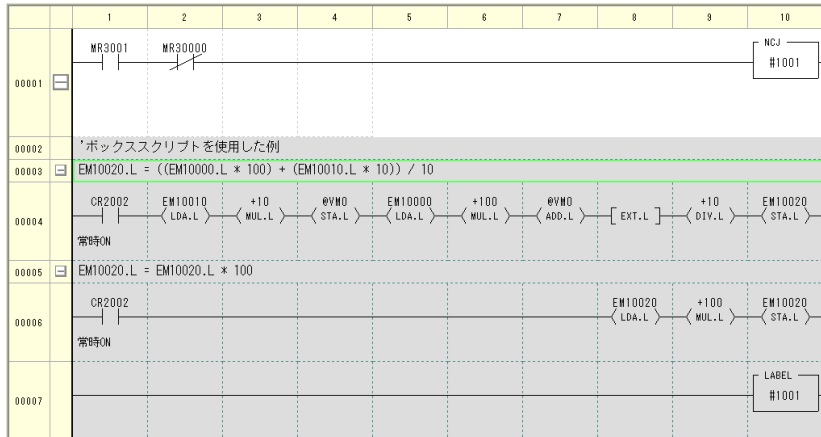
変換ラダー内のラダーをすべて折りたたむ

KV-7500/7300	KV-5500/5000/3000	KV Nano
KV-1000	KV-700	KV-P16
		KV-10/16/24/40

スクリプト(S) ▶ 変換ラダー内を全て折りたたみ(O)

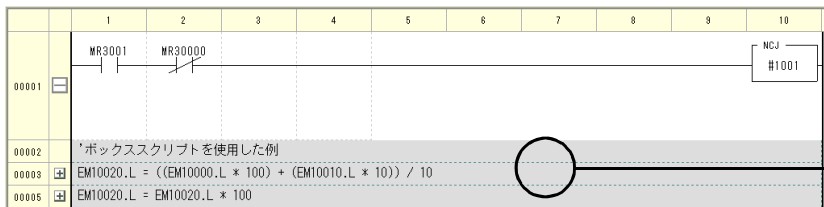
変換ラダーの表示/非表示で表示された変換ラダーのうち、ラダー部分を折りたたみスクリプトが記述された行コメントのみ表示します。

1 折りたたむ変換ラダー内のラダーまたはスクリプトを選択します。



2 メニューから【スクリプト(S)】▶【変換ラダー内を全て折りたたみ(O)】を選択します。

変換ラダーの表示/非表示で表示された変換ラダーのうち、折りたたみスクリプトが記述された行コメントのみ表示されます。



変換ラダー上で右クリックすると、スクリプト用右クリックメニューが表示されます。

参考 変換ラダー内のラダーまたはスクリプトの行の ボタンをクリックすると、1行単位で表示/非表示の切り替えができます。

別手順 変換ラダー上の右クリックメニューから[スクリプト編集(X)] ▶ [変換ラダー内を全て折りたたみ(O)]を選択します。

12-4 入力補助機能

スクリプトの入力を補助する機能を説明します。

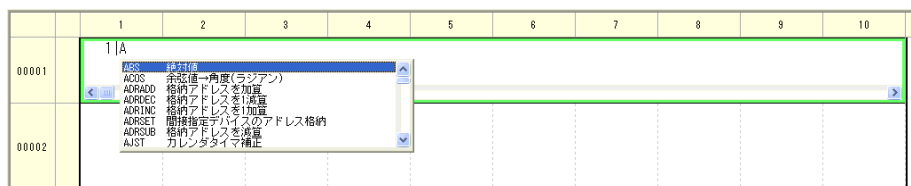
スクリプト関数候補を表示する

[KV-7500/7300] [KV-5500/5000/3000] [KV Nano]
[KV-1000] [KV-700] [KV-P16] [KV-10/16/24/40]

スクリプト(S) ▶ スクリプト関数一覧(F) [Ctrl] + (スペース)

関数名そのものがわからなくなった場合や、関数を途中まで入力したときに、関数候補を表示します。

- 1 関数名を途中まで入力し、メニューから【スクリプト(S)】▶【スクリプト関数一覧(F)】を選択します。
スクリプト関数の候補が表示されます。



- 2 使用する関数を選択し [Enter] キーを押すかダブルクリックします。
スクリプトエディタのカーソルがある場所に選択した関数が挿入されます。

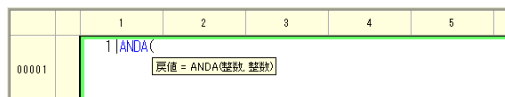
簡易書式を表示する

[KV-7500/7300] [KV-5500/5000/3000] [KV Nano]
[KV-1000] [KV-700] [KV-P16] [KV-10/16/24/40]

スクリプト(S) ▶ スクリプト関数ヒント(H) [Ctrl] + [Shift] + (スペース)

関数を入力するときに、引数や戻り値の有り無しなどの情報をスクリプト関数ヒントとして簡易的に表示します。

- 1 マウスカursor「I」を「|」の右側に置き、メニューから【スクリプト(S)】▶【スクリプト関数ヒント(H)】を選択します。
スクリプト関数ヒントが簡易書式を表示します。



別手順 「関数名(|)まで入力すると、自動的にスクリプト関数ヒントが表示されます。